

## ラムが名づけた

### グロッキー

昔から船乗りにラム酒はつきものだった。現在は重油をたいて走るディーゼル機関の船が多くなったが、これまでの、煙をはいて海を渡った船はみな、船底でボイラー

のラムを、生のままで支給されていた。ところが、ボルトベロ占領戦の英雄としてあがれるバーノン提督は、この年、旗下の船員に「ラムと水とを半々にまぜて支給する」と命令した。

彼は平素、グロッグラムと呼ばれる粗末な布でつくった上衣を着ていたために「オールド・グロッグ

までのアダ名が、彼の支給した酒の呼び名となり。水で倍に薄められたラムのことを「グロッグ」と呼ぶことになった。そんなイワクがあったのに、18世紀の終わりごろにはそんなことはすっかり忘れられ、全海軍をあげて「グロッグ」ほどよいものは、どこにもない」といわれるようになった。

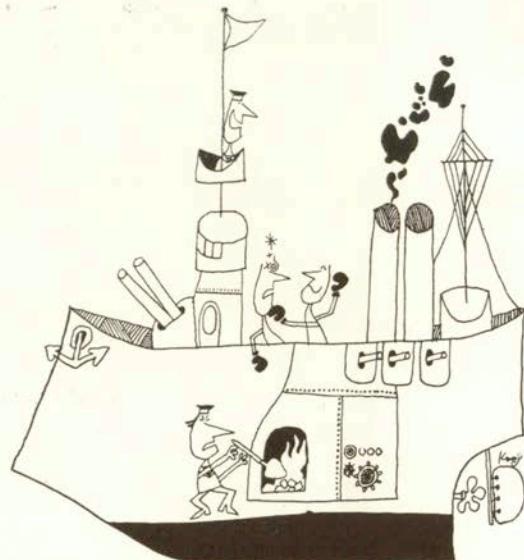
いま日本では、テレビの普及と

ともにボクシングが爆発的な人気をさらっているが、その用語「グロッキー」という言葉は、英語グロッキー(Groggy)のナマリについて、このグロッグを飲んだために深酔いしたサマをあらわした形容詞であり、のちに転じてボクシング用語となつて、ヨロヨロとよろめく様子をいうようになったのである。

### ・ギムレットカクテル

Gimlet Cocktail

辞書をひいたらネジ錐とかいてありました。これがオナカのなかを駆けめぐると、食欲はグンとすこで割ったラムを飲ませよといふやうな、人のいやがることをやつてのけたので、彼はしばらくのあいだ「ゲチの司令官」といわれるよになつた。この飲み方の本当のよさに、みんなまだ気がつかなかつたのである。そこで彼のそれ



## 洋酒はなしのタネ

藤 本 義 一  
佐々木侃  
え

に石炭をくべる。火夫は百度以上の熱さにさらされるので、これに耐えるため、ときどき交代で甲板へあがっては強制的にラムを飲まされた。もちろんあちらの話である。

1742年までは、イギリス海軍の兵員たちも、毎日半パイント

「とアダ名されていた。ところが水で割ったラムを飲ませよといふやうな、人のいやがることをやつてのけたので、彼はしばらくのあいだ「ゲチの司令官」といわれるよになつた。この飲み方の本当のよさに、みんなまだ気がつかなかつたのである。そこで彼のそれ

トリスライムジュース  $\frac{1}{3}$   
ヘルメスジン  $\frac{2}{3}$   
以上をよくシェークして、カクテルグラスについてだします。



マダム コンパンワ

OCTOP

オクトップ



たましひのしづかにうつる菊見  
かな(蛇笏)――という句がある。  
「オクトップ」のママ坂口修子さ  
んが「好きな花は菊とマーガレッ  
ト」といつたとき、ふとその句を  
思い出した。単にことばの連想で  
はない。菊とむかいあうようなた  
たずまいが、この人にはある。そ  
れも大輪のあでやかさでなく、秋  
の野辺に一輪すつ寄りそつた野菊  
の清らかさだ。生田筋の朝鮮料理  
『金剛山』の路地を西へ入って十  
米。しつとりと、それでいて小マ  
タの切れ上がった店である。

坂口修子さん――あるいはご記憶  
のムキもあるかも知れない。いま  
から七年前の五月、マニラで開か  
れた第二回アジア・オリエンピック  
に出場、高飛び込み、板飛び込み  
の二種目に銀賞を獲得した人。と  
いえば、均齊のとれた伸びやかな  
肢体に、ナルホドと合点がいくだ  
ろう。奔放自在に水とたわむれな  
がら、なお執着を残しているのか  
店の名も『オクトップ』(タコと  
いう意味の由)とシャレた。

したがつて、客筋にはスポーツ  
を愛する人が比較的多い。淡パク  
なようで、さびしがり屋、ハッタ  
リのきらいな誠実さ:が人を惹く  
のだろう。乳白色のやわらかな光  
線とカウンターのにぶい反射光の  
まぎり合うなかで、いかにもシロ  
ウトくさいティネイな物腰を崩さ  
ない。どちらかといえれば思い切つ  
てシンプルなデザインと色彩を、身  
にまとつた方がピッタリくるが、  
それもプロポーションの美を裏  
書きすることにならうか。とがつ  
た気持を解きほぐす清涼剤?とも

(A)

御中元の最適品



洋品の店  
**千 祕 蘭**  
神戸元町四 TEL ④6959

サングラスで  
楽しく・美しく

夏のアクセサリーとして  
楽しいサングラスを

- サングラス  
豊富品揃



**平井メガネ**

生田区加納町4丁目1ノ1  
国鉄三宮北側 ② 7937



元町 4 丁目

## 千秋堂

洋品の店

### 信用ある洋品の店

元町四丁目（本通り）のなかほど浜側に、いつもフレッシュな感じのワイシャツ、ネクタイ、スポーツウェアが、主な商品だが、このアーティスティックな店が、神戸っ子の足をとめているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。

大正時代、多聞通りに開店した先代「千秋堂」のお店を、ご主人の仲道頼市さんが、受けがれ昭和二十四年から現在の場所ではじめられたというから、その歴史は

古く、お客さまも固定している。ワインシャツ、ネクタイ、スポーツウェアが、主な商品だが、このアーティスティックな店が、神戸っ子の足をとめているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。

大正時代、多聞通りに開店した先代「千秋堂」のお店を、ご主人の仲道頼市さんが、受けがれ昭和二十四年から現在の場所ではじめられたというから、その歴史は

古く、お客さまも固定している。ワインシャツ、ネクタイ、スポーツウェアが、主な商品だが、このアーティスティックな店が、神戸っ子の足をとめているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。



（写真は豊富な商品で彩られた店内で応対する仲道さん）

多い。サイズの種類も小、中、大特大とバラエティに富み、ことに巨人用サイズには力を入れている。ほか、紳士はだ着、クツ下、カウントなど多種多様な紳士洋品がウエア、ネクタイなどが美しく飾られているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。

大正時代、多聞通りに開店した先代「千秋堂」のお店を、ご主人の仲道頼市さんが、受けがれ昭和二十四年から現在の場所ではじめられたというから、その歴史は

古く、お客さまも固定している。ワインシャツ、ネクタイ、スポーツウェアが、主な商品だが、このアーティスティックな店が、神戸っ子の足をとめているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。

古く、お客さまも固定している。ワインシャツ、ネクタイ、スポーツウェアが、主な商品だが、このアーティスティックな店が、神戸っ子の足をとめているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。



# 浪曲場

中野耕三・勝・画

△前回までのあらすじ△

私（阪神日報の海運記者）はアンコ死亡事件を追求してその確認を得た。だが、部長は何故か、記事として報道することに気が進まないふうだった。

私は部長に喰い下った。ここで諦めたのでは一切が水泡だ。波止場の巨大な構造、勢力に私が負けたことになる。

「とにかく、局長に相談してみて下さい」

「話すだけは、話すがね」

「それじゃ困ります。絶対に活字になるように頑張つて下さい。第一、この暴力事件を見逃してしまったのでは街を明るくする運動、暴力追放はカラ念佛じあありませんか」判った。一諸に局長のところに行こう。俺にその科白をたきつけるより、局長にぶつけた方が効果はあるぜてわけだ」

部長は私の胸中を見抜いていた。新聞記者生活二十年の部長は、いい面も悪い面も知り過ぎている。いくら私が猪突を試みたところで、口では「そうだな、君の云う

通りかも知れん」と云つても、腹の中では、反対の事を考へているにきまつていて。その証拠に部長は私をからかいだした。私は意気込んで、部長は幾分迷惑そうな表情で局長の机の前に立った。局長は私が調べた簡単なメモを見ていたが、眼鏡をはずして上目使いに私を見た。部長と同じことを云うものと、決めていた私は、最初、局長の言葉に、自分の耳を疑つた。

「行こう」

「はあ？」

「やっつけようというんだよ。丁度、兵庫県下一齊に暴力追放期間だ。大々的に報道して県政市政の方針にそようにしてよう」

私は局長にそよ云われて、そよ云えば生田署にも三階の窓から地上にとどくほどの大きな、「暴力追放、明るい街作り運動」と書いたのぼりがさげられていたのを思いだした。

「それにしても、よくやつたね。青木君。こういう問題はとかく掛け声だけに終つてしまふものでね。頑張つてくれ給えよ」

私は感激した。血管が一度にふくらむように胸が熱く

なった。汗みどろになつて歩き廻つた努力が報われたの

だ。私はふと部長は何故反対したのだろうと思った。部長の顔を見た。部長はそれまで私の横顔を見ていたらしく、私が横を見ると同時に窓の外へ視線をそらした。私は恐らく口許に得意そうな笑を浮べていたに違いない。

いや、老化したベラン記者に対する蔑みの冷笑だったかも知れない。部長はそんな私を見るのが厭だつたのだろう。私は部長の心の動きを察すると、得意になつている時の私の悪いくせがでてしまつた。

「部長、産むは案するよりも易しですね」

私は部長の表情で敗北感を待つていたのだが、何故か部長の目に、私をあわれむようなものが漂つた。部長の席に戻つてからも私はまだ追打ちをかけるように云つた。

「局長は案外話が解りますね。ちょっと意外でしたよ」部長は微かに笑つて「君がそう思うなら、それでもいい。こうなれば徹底的にやるより仕方がないだらう。及ばずながらと云つたら君の事だ、気を悪くするかも知れないけど、僕も社説欄で応援するよ」

部長の含みのある言葉は気にかかつた。だがベラン記者の部長が応援するという事には素直に感謝した。

記事は翌日の朝刊からと、その日の夕刊に無理して第一報をださせた。整理部や版組の係りには、私自身が頭をさげて頼んで廻つた。トップ記事だった。

吉田事件はそれから一週間、ぶつ紹介で、「お骨になつた証拠」とか「アンコ故に、警察も見て見ぬふり」といった煽るような見出しで活字になつた。阪神日報だけの時は警察はまだ動いていないようだ。然し地方有力紙である紙とS新聞がこの事件を社説で、朝毎誌の三大新聞が特集で三面一杯に報道しだしてから、警察も特捜本部を生田署に設けて、本格的に動きだした。

私の得意は絶頂だった。吉田事件のスッパ抜きは社会部の連中を口惜しがらせた。でも社会部は私のいた元の

古巣だ。仲間は嬉んでくれた。

「アーラーさん、遂にやつたな。骨になつて証拠ちょっといかせ」

「スリラー小説の題名にはね」

私は唇をゆがめて笑つた。

「こいつは局長のアイデアだな。巨大な波止場の牙なんていう見出しださ」

「だけど特号活字だぜ。ポンポンと。俺も一度はこういう記事をだしてみたいね。」

「全くだ。どうだいアーラーさん気分は。明るい顔して貰うかな。パットさ。局長賞をもらつたんだらう」

仲間は私を囲んで冷かしたり騒ぎたてたりした。だが私は仲間と一諸になつて騒げなかつた。その日の記事に隆が加害者となつて挙げられていたからである。

「そいつが、あんまり寝ざめがよくないんだよ。加害者になつているこの手配師の隆という男ね、気の弱そうな人のいいオヤジなんだ」

「気に病んでいるのか。人は見かけによらないものだつて云うぜ。そんなのが案外カーッとして狂暴なんじあないのか」

「リンチを加えた奴は、この隆という男だけじあない。その前にさんざん痛められていたんだ。吉田が砂糖を一杯搔いたのを見付けたのはK運輸の荷役監督だ。K運輸の小頭やワインチマンが袋叩きをしている。それを見た恩田組の労務係がますい事になつたと思ったわけだ恩田組はK運輸の下請だらう。事故を起して後の仕事ながく貰えなかつたらと考へたわけだ。そこでこの野郎ウチの顔に泥を塗りやがつて、と大見栄を切つて撲る更に三次下請の栄組の連中が加わつた。そこえ手配師の隆つていうこの男が駆けつけたわけさ、被害者の吉田は彼が栄組に入れている。彼にしたら自分が世話をしたアンコが事故を起せば、今後の出入を差し止めされる。忍ち浜では生きて行けなくなるので、もう伸びてゐる吉田をゼスチニアも入れてゴツンとやつたわけだ」



私は暗い氣持だった。おそらく仲間の記者がいうように検数協会のターリマンも、労務者も、隆の他に数人が踏んだり蹴ったりした事は口外するまい。とすれば結果は隆一人にしぶられてしまう。「共犯の線では行けないだろうな」

「先ず無理だろう。かんじんの死体が灰じあね」

私はK紙の論調が手配師制度の存在を鋭く突いていることも、隆に不利になっていると思った。

「アーサンは、隆個人にはひどく同情的だが、ちつと加害者心裡じあないか。老練の刑事が強殺犯の寝込を襲つて引張る時に、そいつの家庭に子供なんかが居たりするとか、当分、刑事稼業がいやになるそうだ。第一、手配師というのは違法なんだろう」

「うん、K紙もそれを追求しているが、それは全港湾労組の線だ。全港湾では力説していた。理由はある。指命アンコ、直行アンコの常雇化を組合の理想としているからな。が実際問題として、本家仲間、分家仲間といわれて引張る時に、そいつの家庭に子供なんかが居たりするにこの二次、三次下請会社の常雇者と、アンコでは一諸にならないことも知っている。荷役能力は雲泥の差だし労働に関する考え方も本家仲間、分家仲間は真剣だ。俺は今度の事件で波止場を歩いてみてはじめて判つたのだが常雇とアンコは一眼で区別がつくんだ」

「すると、アーサンは今後どの線で行くんだ。やはり暴力の温床となっている港湾荷役会社の特別事情、つまりなもんだからな」

「相変わらずアーサンらしい行きかただよ。それでも

「結局そつなるな。事件は一応、社会部に渡すよ。俺は本来の海運記者に戻るさ。そして港湾荷役機構そのものを叩く。さもなければ汚物を放つておいて、蠅を追うようなもんだからな」

「じあ証言にはならねえな。奴さん警察でも同じことを

云つてゐるし、奴さんの顔付で栄組に入つてゐる指導アンコが確かに昆棒で撲つたのを見たと云つてゐる」

「そいつが応えたのか」「相當まいつていた後だつたからな。それにしても、目撃者は多勢いたはずなんだがな」「アーサン、浜の人間は証言はしないぜ。後が怖いからな。然しあーさんの話は何處からでたんだい」「隆からなんだ。奴が吉田の手配師だとつきとめた日にな」

「じあ証言にはならねえな。奴さん警察でも同じことを云つてゐるし、奴さんの顔付で栄組に入つてゐる指導アンコが確かに昆棒で撲つたのを見たと云つてゐる」

た。

その翌日から、私は記事の上で波止場の機構を追求しました。まずアンコの存在についてだ。波止場のアンコの存在についてだ。波止場のアンコが職安の失対事業の一部に利用されていること、しかも職安支払の賃金より手配師を通じた方が賃金が高額である事をあげた。といふ事は、月末月始めに殺到する出入港船に対して常雇者が絶対数不足している。つまり三大倉庫の下に六大元請会社があり、元請会社は二次下請会社を何社か抱えている。その事、自体が雇用人員を減らしての危険分散だ。

二次、三次下請会社は船ごみの時だけアンコで人員不足を補う。ここに手配師が必要悪として認められる事実がある。

## ◆ 読者サロン ◆

号を重ねるにつれ、内容も充実してきた感じです。タイミングのよい対談「神戸とマルセイユ」どうもありかとう。欲をいえばマルセイユの風物写真がほしかったですね。福富先生の『雨の日のオシヤレ』とても参考になりました。

早速、組み合せの工夫を試みたところ、家中の人が「同じレインコートを着てゐるのに、ずい分感じが違うよ」ってほめてくれました。最後に、わが母校松蔭女子学院の紹介ーとても気をよくしてます。いっそう「神戸っ子」が好きにな

結論として、私は今度の吉田リンチ事件でも、その責任は一番弱い手配師の隆が一人でかぶつてしまつたよう

に、経営面でも同様な事が繰返されている、と数字をあげて書きだした。

この記事は、当然、賃上げ闘争中の全港湾労働組合が利用する結果になった。はじめは大いにハッパをかけていた局長の顔が次第にむずかしくなった。

「赤が利用だしたね」なぞと、それとなく具体的な数字やグラフをあげることに難色を示した。

特に海運関係官庁と倉庫、元請荷役会社が組織している港湾振興協会が反論声明のパンフレットがでだしてからは、最初の意気込みはなくなつた。

— 以下次号 —

りましたワ。（兵庫区・加納薫）

・遠く故郷を離れて生活している私にとって、毎月友人から送くら

れてくる「神戸っ子」は、唯一の心の慰めです。六月号のショッピング頁の組み合わせはステキでしたね。懐しいお店がグラリと並んでいるので、うれしくなりました

（東京千代田区・大村昌子）

・六月号の表紙ビュッフェの絵はよかったです。小品だが有名人の画集をしていた私は何よりのプレゼント、しかもビュッフェの絵が神戸のバーに飾られていたとは驚きだ、一度ぜひあの絵を見にいこうと楽しみにしている。

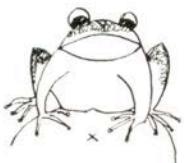
（川重秘書課長・飛松実）

☆月刊「神戸っ子」を毎月お読みになりたい方又神戸を離れているお友達にプレゼントなさりたい方は編集室にお申込み下さい。6ヶ月分500円（送料共）

☆本屋さんに「神戸っ子」があります 文洋堂国際会館1階

海文堂元町3

ひんくこーなー



日本の政治家はよく『天地神明に誓つて』などと申しますが、今どきはもうこんな大時代のはやりません。かえって『ウソをいってらい』という気になります。そこへ行くと外国にはいろいろとおもしろい誓いかたがありました



ひんくこーなー

ソクラテスは『大に誓つて』といふのがログセだったようですし、ビタゴラスは『水と空気に誓つて』とやつたそうです。暴君ネロのお気に入りたつたベトロニウスという粹人は、さすがに誓いのことばもアカ抜けがしておりました。

『カリス(女神の名)の白い膝に誓つて』というのですから、これがおそらく誓いのことばとしては最高といつていでしよう。ところで、白い膝ですが、ピッタリと身についたタイトスカートから少しのぞいている、かわいい膝小

からほごして取るのが素晴らしい楽しみなのよ』。ちょうど恋をしている男が初て娘の胴着を脱ぐのを手伝うのと同じ気持ちなのと、いうわけです。

ジョージ・ムーアというオジサマは『女に着物を買ってやるのはそれを脱がせるのがたのしいから大きい関係があるといつたら不思議な顔をされる方があるかもしれません、ヘルマン・ヘッセは作品のなかでこんなふうに書いています。『このカモの足の肉ね、このきれいなスキ通るような肉を骨

僧を見したら、誰たって誓いたくもなるでしょう。だが、なぜ膝に『小僧』をつけるのでしょうか。たた小さくてかわいいからでしょうか。それとも鼠小僧や稻葉小僧のように、知らぬ間にすべりこんだり、割り込んだりするからかもしれませんね。

『あんた、膝をそろ押しつけないでよ』  
『膝たつて?、天地神明に誓つてコレは膝じやないよ』  
じや、いつたい何でしよう?

(T)

た女の子は子どものころに、お人形の着せかえ遊びをするのがお好きですが、大きくなると、こんどは男性の方がこの遊びに夢中になれる傾向があるようです。ただし男性の場合は次のようです。

『ねえ、ちょっと手伝つて……』といわれると、彼氏は待つていましたばかり、うしろへ回つてホックやボタンをはずします。ところがしばらくして『ねえ、着るのを手伝つて!』といつたら『着るのは勝手に着たまえ』

(T)

## THE SECOND COVER

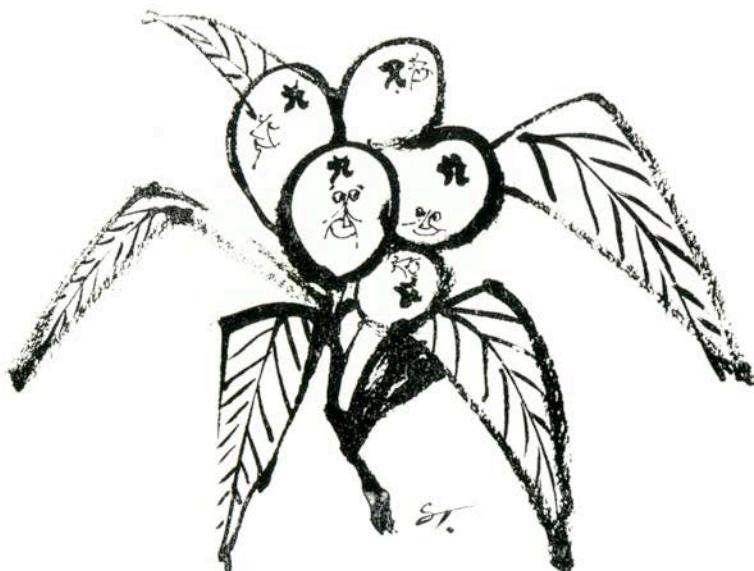
ヘレン・ヒギンズを思わず八頭身美人一清水靖子さんは、美女の多い松蔭女子学院出身、神戸ドレスメーカー女学院では好きなデザインを勉強、もっか花嫁修業中。ラテン音楽が大好きという、明るい性格の神戸っ娘でハスキーナ声も魅力的です。

撮影 衣川 宏



7月号の発行に色々とお世話いただいた方々

雄一子造ム英平夫 楽勝渥二介郎 七勝美男二 雄城慧  
重正真伊真ツ 良芳喜 勝孝健達 芳高裏辰月  
木並崎部根淵西磯林林本川川村中井西富井地崎 杉  
青櫻岡岡小大川小小古阪白滝田田永中福松宮百森若



## 編集後記

『涼』に恋こがれるシーズンを迎えました。でも『海と山』に囲まれた神戸っ子は幸せですね。週末や夏休みには、神戸の輕井沢といわれる『六甲山』にまた須磨や舞子の浜へと一手軽に『涼』を求めて出かけられるんですもの。ところで今月は、神戸っ子の皆さんはじめ、休みを利用して神戸にいらっしゃる方たちをとくに『涼しい』神戸名所へご案内しようと『涼線』を求めて」を企画しました。一度ぜひお出になつてみてください。

本誌のカットを書いてくださいつている中西勝氏(二紀会)のお宅鴨子ヶ原にこのほど立派なアトリエが完成。静かな自然美に恵まれた環境と、ガラスを張りめぐらした明かるいアトリエ——きっとすばらしい絵が生まれることでしよう(おめでとうございます)

同じく連載小説『波止場』の作者細野耕三氏は、住み慣れた神戸を離れ、いよいよ東京で活躍されることになりました。住む都会でなく、生きるための都会——といわれる東京でのご活躍を祈つております。

(1)



北欧の銘菓

クッキー

ピラミッドケーキ

バウムクーフェン（ドイツ名）

ムンデッド

ユーハイム  
コンフェクト

工 場 神戸市東灘区熊内町1丁目・②2336

神戸市三宮町2丁目・③4314

三 宮 店 神戸三宮生田筋(階上喫茶室)③0156・7343

芦 屋 店 省線芦屋駅前通り・芦屋5605

大 丸 店 神 戸 大 丸 地 階 銘 菓 街

阪 急 店 大 阪 阪 急 地 階 食 料 品 部

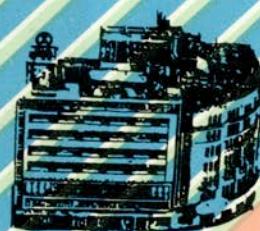


抽せんが2度楽しめる…三宮中元セール

三宮センター街・そごう共催



いよいよ  
行きいき  
買買  
樂樂  
“そごう”



発行所／神戸市兵庫区御幸通八丁目九ノ一  
昭和三十六年七月十五日発行 每月一回

神戸国際会館一階  
編集／五十嵐恭子

TEL(2)7037037 領価七〇円

発行／小泉康夫

(送料10円)